



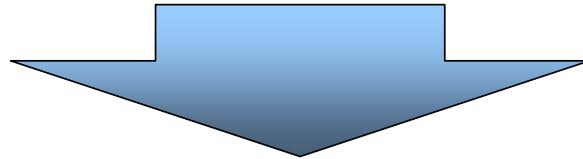
# 県立病院好生館の 移転先予定地について

---

平成17年3月29日

# 移転先予定地

「佐賀市の市街地及びその周辺区域」  
において移転候補地を6か所選定し、  
検討した結果



移転先予定地は

**「アバンセ北」** (佐賀市天神)

# 県立病院好生館の移転先予定地について

## アバンセ北の状況

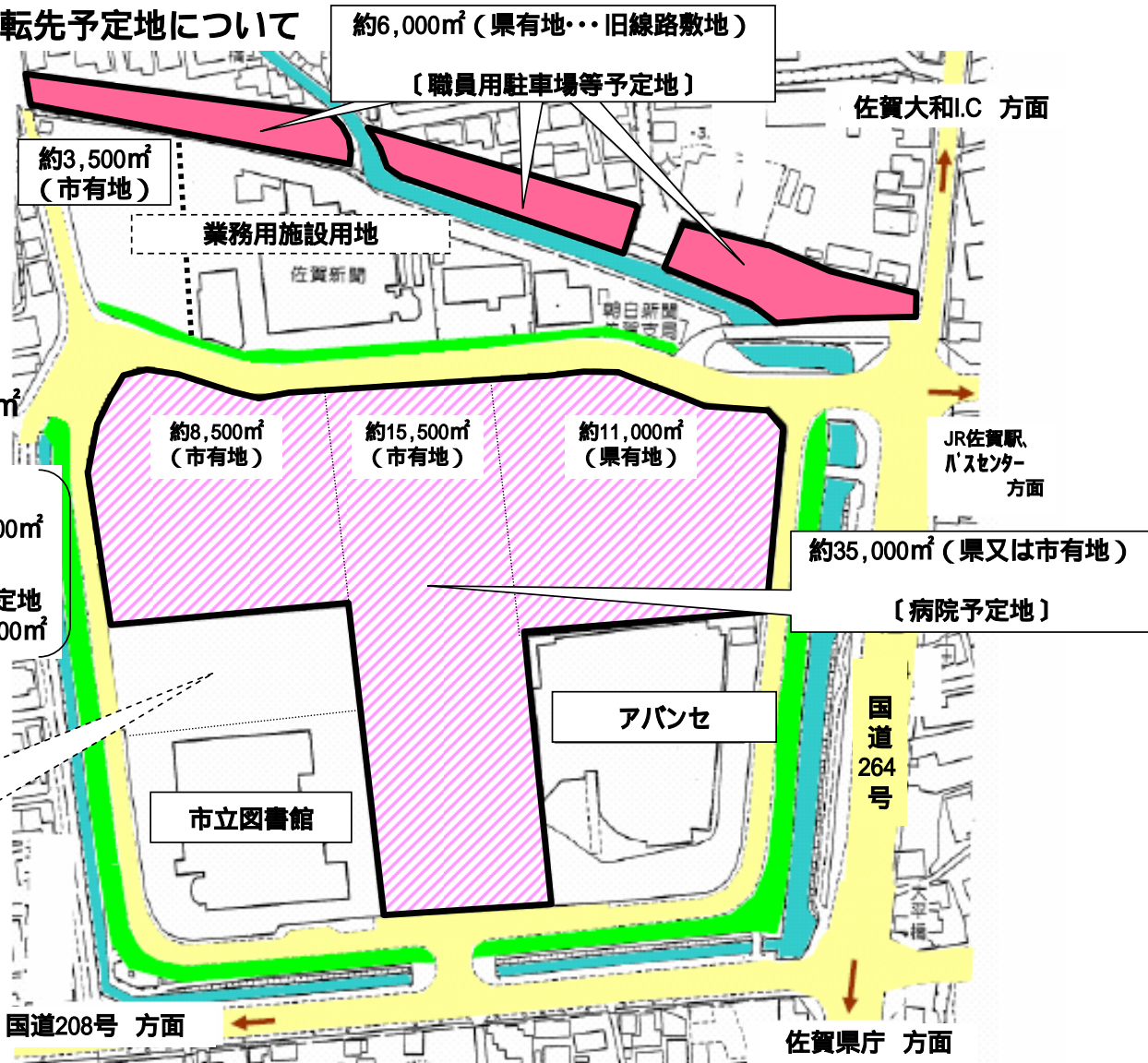
敷地面積 合計 約41,000㎡

〃

- 病院予定地 約35,000㎡
- 職員用駐車場等予定地 約6,000㎡

約4,500㎡ (市有地)

〔図書館・アバンセ等  
駐車場(予定)〕

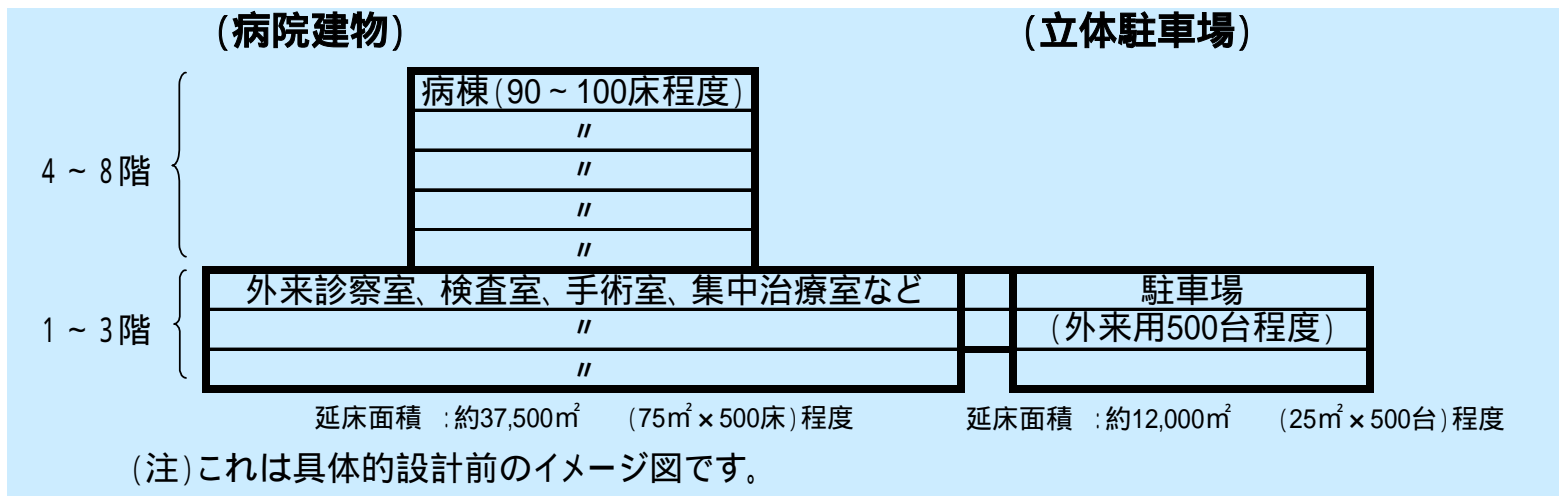


# 新しい県立病院の診療機能と 駐車場の配置イメージ

## (一般的な病院整備の考え方)

患者さまの負担や医療提供の効率性に配慮し、

- ・外来診察室、検査室、手術室、集中治療室などの中央診療部を低層階に
- ・病棟を上層階に配置





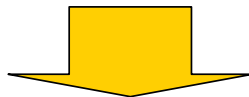
# 病院整備の基本的な考え方

【県立病院好生館基本構想報告書で提言された役割】

がんや心疾患、脳血管疾患などに対する  
**高度・専門医療**

症状の重い救急患者に対する**3次救急医療**

手術や集中的な治療を中心とした**急性期医療** の提供



役割を十分に果たす病院を整備

(前提条件)

県立病院の移転に最低限必要な敷地面積  
(その1)

市街化区域の場合

- ・建ぺい率80%地区 22,000m<sup>2</sup>以上
- ・建ぺい率60%地区 25,000m<sup>2</sup>以上

市街化調整区域の場合

- ・建ぺい率60%、容積率100%地区  
41,500m<sup>2</sup>以上

## (前提条件)

# 県立病院の移転に最低限必要な敷地面積 (その2)

### 【敷地面積の考え方】

#### 1 市街化区域の場合

##### (1) 建ぺい率80%地区

病院建物	約7,000㎡	(類似病院の整備事例より)
立体駐車場(3層)	約4,000㎡	(外来用約500台分)
敷地の余地(建物拡張)	約4,000㎡	(好生館の過去の拡張実績から想定)
〃(緑地、敷地内道路など)	約7,000㎡	(感染症指定医療機関の事例より)
合計	約22,000㎡	

##### (2) 建ぺい率60%地区

の建物を建築するために、少なくとも25,000㎡の敷地が必要  
建物の建築面積( + + ) ÷ 60%

#### 2 市街化調整区域の場合

容積率が100%地区であるため、少なくとも41,500㎡の敷地が必要  
病院建物の延床面積(将来拡張分を含む) 約41,500㎡ ÷ 100%

# 移転先の具体的な選定方針

アクセス道路の利便性  
公共交通機関の利便性  
県西部地区への配慮  
社会資本の整備状況  
市街地としての将来の発展性

「県立病院好生館  
基本構想報告書」  
に示された観点

市街地の空洞化防止

「公共施設はできる  
だけ市街地にある  
ことが望ましい」と  
いう考え方を追加

敷地面積の確保  
事業費の抑制



# 「公共施設はできるだけ市街地にあることが望ましい」という考え方を追加した理由

## (中心市街地の現況)

車社会の進展、業務・公共施設等の流出      空洞化

## (中心市街地の役割)

少子高齢化、環境問題、自治体の財政問題などの下での期待  
地域のシンボル

商業、サービス機能の充実による地域経済の基盤

職・住一体となったコンパクトな街

既に整備されたインフラをリニューアル

環境負荷、財政負担の低いコンパクトな街

公共交通機関の利用促進      環境への配慮

## (公共施設配置の基本的な考え方)

中心市街地がその役割を果たし、活性化するためには、  
今後の公共施設の配置はできるだけ市街地へ

# 6か所の候補地を選定方針に基づき比較検討

佐賀駅前ゾーン  
アバンセ北ゾーン  
兵庫ゾーン  
本庄ゾーン  
鍋島ゾーン  
嘉瀬ゾーン

# 「アバンセ北」とした主な選定理由

4車線道路に隣接するなど、県西部地区をはじめ県内各地からの道路アクセスがよく、車の利便性がよいこと。



バスセンターや佐賀駅に近く、バスやJR等の公共交通機関の利便性がよいこと。



敷地は既に県と市が所有している土地を活用でき、上下水道等の社会資本も整備されているため、新たに移転に要する事業費を低く抑えることができること。

中心市街地の空洞化防止や一定の地域内で様々なサービスが受けられるという中心市街地の機能確保への寄与が期待されること。

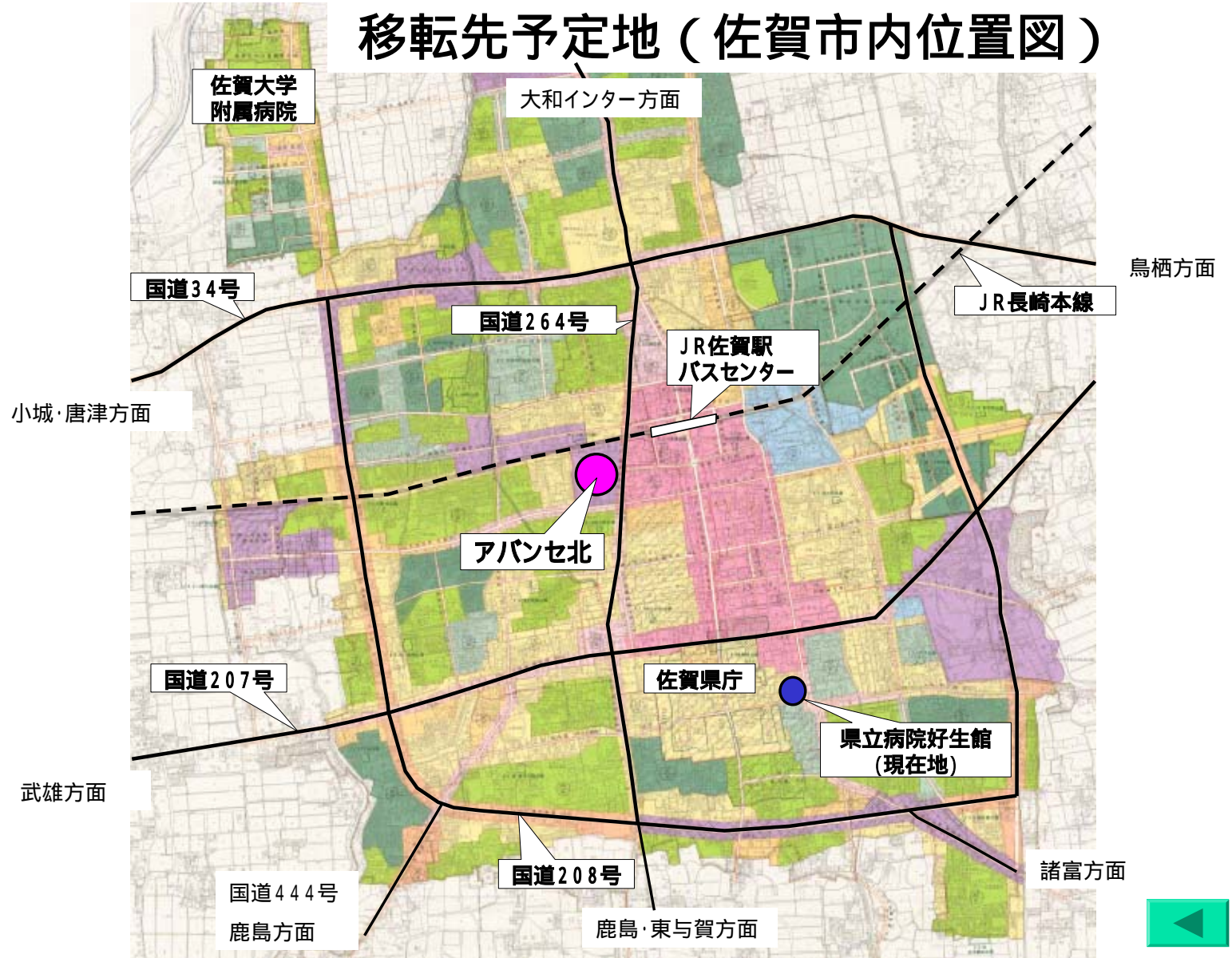


# 移転先予定地(県内位置図)

● アバンセ北

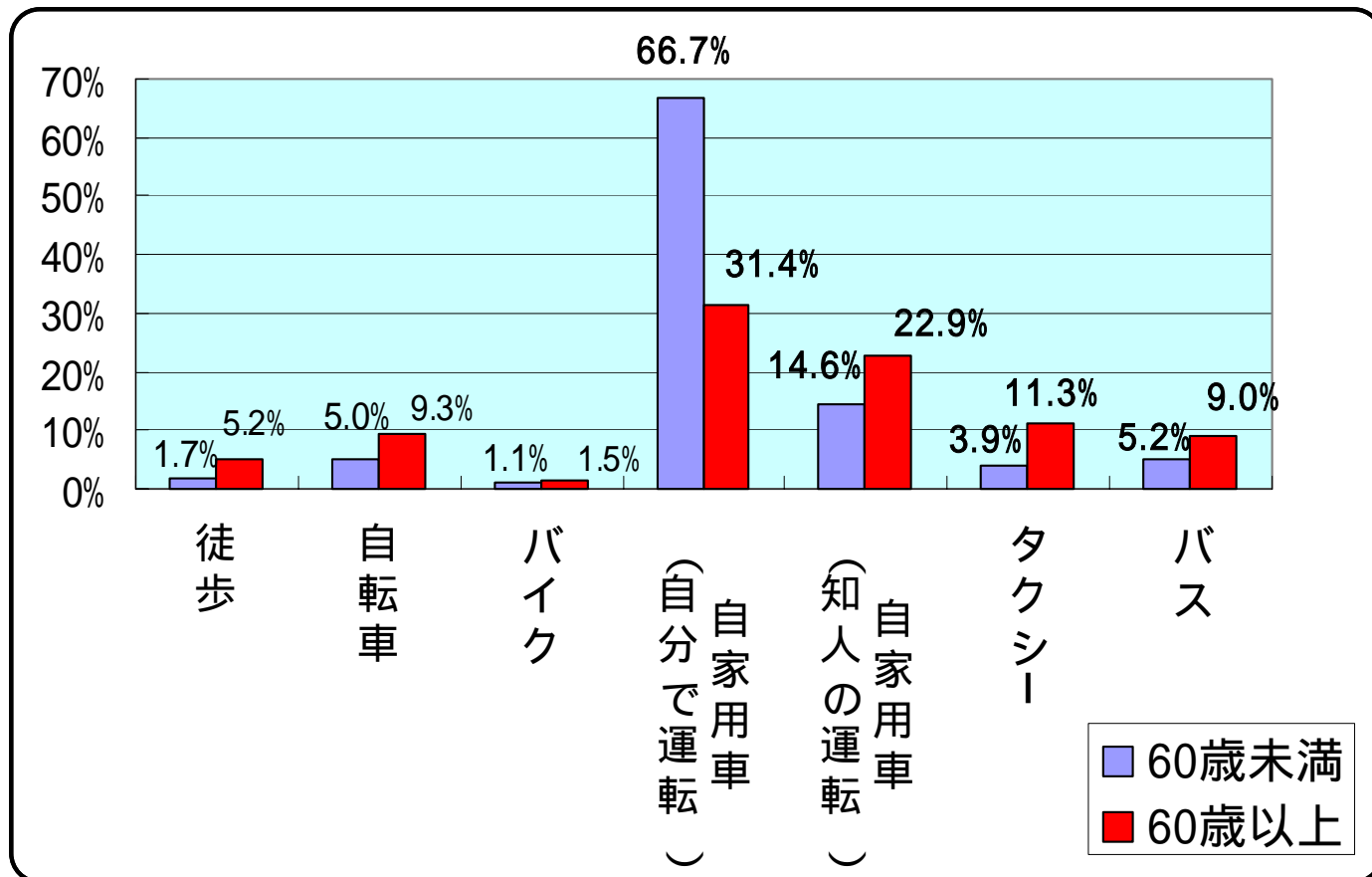


# 移転先予定地（佐賀市内位置図）



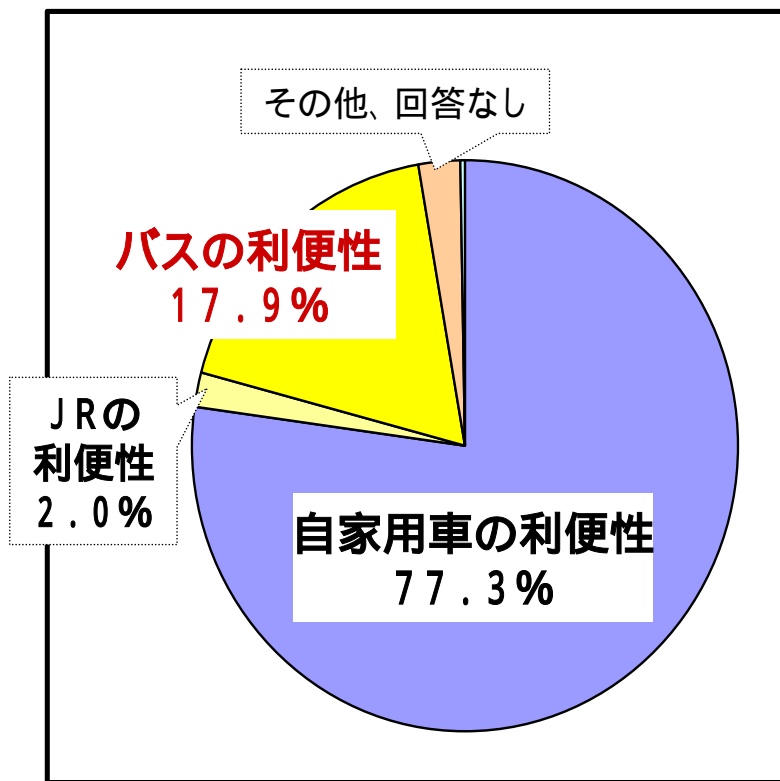
# 好生館への交通手段の状況

(好生館交通手段調査(H16年9月)の結果より)

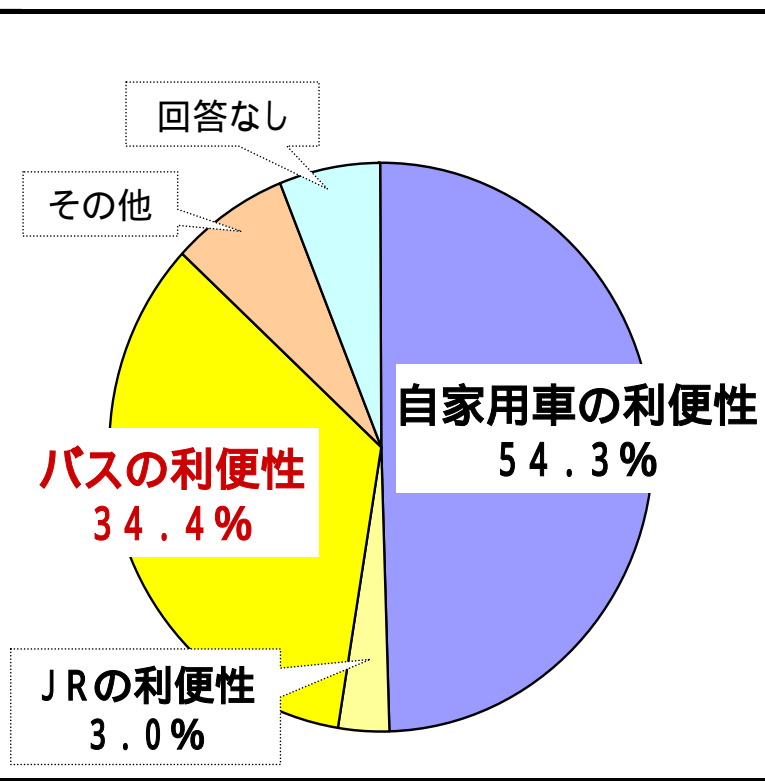


# 移転先選定に当たり重視してほしい交通手段 (好生館交通手段調査(H16年9月)の結果より)

## 60歳未満



## 60歳以上



## アバンセ北付近のバス路線の状況

アバンセ北の周囲(約100～400m)にバス停(3か所)  
佐賀駅バスセンターを起点に7路線85本が運行  
(1時間に7本程度)

[バス運行状況(8:00～20:00)]

バス停	運行者	行き先	運行本数
どん3の森前 (距離約100m)	市営バス	江頭・クレオパーク	15本(1.2本/h)
どん3の森東 (距離約100m)	市営バス 昭和バス	佐賀短大、平松循環 北山、古湯、イオン大和	14本(1.1本/h) 31本(2.5本/h)
堀江通り (距離約400m)	市営バス	佐賀大学附属病院	25本(2本/h)
合計			85本(7本/h)

参考:佐賀大学附属病院行きは1路線(1時間に2本程度)







## 検討の経緯

---

平成15年3月 「県立病院好生館基本構想報告書」

6月 県議会で「移転改築問題について立ち止まって見直す」との考えを表明

現地改築ができないか再検討

10月 県内8か所で「県立病院みんなで対話」を開催

平成16年2月 県議会で「県立病院は移転して改築」、「移転先は佐賀市内で、市街地を第一候補」との検討結果を表明

# 現在地での改築が困難な理由

## 「現建物の改修」の場合

- … 病院内の手狭さ、医療提供の効率の悪さ、建物の老朽化の解消ができない。

## 「現地改築」の場合

- … 診療を続けながらの建て替え  
建物の配置、形状が制約され、使い勝手の悪い建物

## 「敷地拡張」の場合

- … 周辺は、住宅や商店の密集地区  
敷地拡張には相当な時間と費用を要す

**問1 どん3の森の空地は、地震等の災害時の周辺住民の避難所として確保しておくべきではないですか。**

**(答)**

佐賀市地域防災計画では、小中学校や公民館などを避難所として指定されており、アバンセ北を含む神野地区内では、神野小学校、成章中学校及び城北中学校等が指定されています。

どん3の森の空地は、もともと施設用地として何らかの形で使用されるという前提となっており、防災のための空間だから建設を止めようとなれば、将来にわたって建物を造らないという意味決定をすることになってしまいます。防災空間は確保できているので、むしろ有効活用すべきと考えます。

災害拠点病院である県立病院が立地することは、ケガ人等への医療行為が迅速に行えることから、当地区にとってはプラスの面もあります。

県立病院好生館の「移転先の予定地」に関するQ&A

問2 図書館、アバンセ、公園があるどん3の森には、病院は似合わないのではありませんか。

(答)

予定地はもともと施設用地として何らかの形で使うことにしていましたが、土地利用の方向性を定めて(H3年9月)から13年が経過した現在も、土地利用や具体的な計画はなく、遊休地化している状況です。ここに県立病院が立地することは、遊休地化している土地の有効活用や、用地取得に対する新たな費用が不要なため、事業費を低く抑えることができるというメリットがあります。

なお、まとまった土地として約35,000㎡ありますので図書館、アバンセとの間には、緑地等の緩衝帯を設けるなど一定の区分は可能です。これにより、入院患者さんの療養環境、アバンセ、図書館との調和といった点も考慮しながら、ゆとりのある空間を持つ計画に努めます。

県立病院好生館の「移転先の予定地」に関するQ&A

**問3** どん3の森の空地は、アバンセと市立図書館の利用者の臨時駐車場として利用されていますが、病院が立地した場合は、困るのではないですか。

**(答)**

現在の駐車場は、アバンセが東側と南側に約120台、市立図書館が図書館西、地下駐車場及び図書館北側に約280台あります。

アバンセは推計で北側の空地で約200台が利用されているようです。アバンセの北側空地分と市立図書館北側分については、現在市立図書館駐車場として利用されている北側の4,500㎡の敷地の中で、立体駐車場などを整備し、駐車場からアバンセまでの間を遊歩道で結ぶなど、利用者に配慮した施設計画に努めます。

## 問4 アバンセ北に病院ができれば、渋滞している道路（国道）がますます混雑することになりませんか。

(答)

道路整備としては、

隣接する国道264号(紡績通り)は、平成19年度までには4車線化での整備が完了する予定です。(それから南側の清和高校横の部分は24年度目途)

JR線路の北側を東西に通る県道松尾佐賀停車場線は、平成20年度までに2車線で拡幅されます。

なお、好生館はスムーズにいけば、24年度開院を考えています。

一方で、通行量を推計してみますと、アバンセ北に来る車は、

通常、最大と想定される午前8時台の1時間当たりで、外来用200台程度、職員用200台程度、合計で400台(1分間当たり7台)程度です。

その後の時間帯については、アバンセや市立図書館利用者の通行が始まり、時にはアバンセでイベント開催等があった場合には交通量が多くなりますが、朝の出勤時間帯とずれることもあり、混雑はそれほどないものと考えております。

なお、今後、交通混雑度については、さらに詳しく精査していきたいと考えています。

県立病院好生館の「移転先の予定地」に関するQ&A

**問5** どん3の森は、「駅やバスセンターに近い」と言われますが、患者さんやお年寄りが歩くには遠すぎるし、タクシーを使うにも中途半端で、バスを乗り換えるのも不便だと思います。

(答)

好生館の外来患者を対象に「交通手段に関するアンケート調査(昨年9月実施)」結果によれば、現在のバス利用は7.2%ですが、「好生館への交通手段として、何を重視して欲しいですか。」という問いに関して、「バスの利便性」は26.5%と高くなっています。

アバンセ北はバスセンターや佐賀駅から約700mに位置し、そこからタクシーを利用しても基本料金で、かつ5分程度の移動時間での利用が可能です。乗り換えの場合も、アバンセ北付近を通るバスは7路線、1時間に合わせて7本程度あり、運行区間も3区間程度の距離です。

駅前を除く、他の候補地に比べて、交通の利便性は高いと考えています。

**問6 救急車のサイレンやヘリの騒音で、静かなはずの図書館の環境が台無しになりませんか。**

**(答)**

救急車の搬送は、比較的多い年末年始でも1日6～12件程度、年間の平均では1日当たり4～5件程度(H15年度実績1,692件)です。

ドクターヘリの運航状況は、県全体で月2～3件、このうち好生館への搬送は、この一部と見込まれ、人命を救うという観点から理解いただきたいと思います。

施設配置の検討に当たっては、救急車の進入路を図書館から離れた場所に設けたり、ヘリポートを屋上に設置するなど、騒音対策に配慮した施設計画に努めます。